

令和4年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校では、生徒の実態を踏まえて、魅力ある定時制通信制教育の推進に努めてきた。さまざまな問題を抱えた生徒たちが、卒業後社会人として自立し、逞しく生きる力を身に付けるため、今年度も引き続き、生徒の実態に即した組織的で効果的な指導体制の充実を図るとともに、個々に対応したきめ細かな支援を行った。今年度は6つの重点課題の改善に取り組んだ。

学習活動【その1】では、重点課題を「学習習慣の確立と単位修得」とした。通常の学校生活に困難を抱える生徒が多く、学習習慣が身に付いていないため基礎学力の定着度が低いという現状を踏まえて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーや外部機関との連携を強化し状況把握に努め、単位修得や進路目標の意識づけを工夫した。

学習活動【その2】では、重点課題を「読書習慣の定着」とした。読書習慣が身に付いている生徒は限られているという現状を踏まえて、今年度は読書感想文または感想画を募り、それを題材にミニビブリオバトルを実施し読書のきっかけづくりをした。また、新着図書やお勧めの本を生徒に知らせるなど工夫するとともに、新聞・雑誌の購入を検討するなど読書意欲の向上に努めた。

学校生活【その1】では、重点課題を「生徒の自律性・主体性の向上」とした。昼間単位制では、生徒会が校則について検討し、守るべき規範は何かを考える中で、その改善案を教職員と協議し、それを生徒全体に還元することで規範意識を高め、自主的自律的な行動を促した。コロナ禍の下での学園祭では、ルールやマナーを守っての活動呼びかけた。

学校生活【その2】では、重点課題を「生徒の防災意識の現状把握と防災意識の向上」とした。あらゆる災害時において、自らの命を守るためリスク回避の正しい知識や、安全に避難行動ができる能力を身につけさせるため、講演会や保健だよりなどに加え学園祭の展示発表により、防災についての知識、情報を伝え、興味関心を持たせた。

進路支援では、重点課題を「進路実現をめざす支援活動」とした。進路決定の際に知識や情報が不足している生徒が多く、進路意識や学力などに大きな個人差があるため、一斉の進路学習は難しいという現状を踏まえて、進路意識の向上のため、外部講師による講義や卒業生のアドバイスを聞く進路ガイダンスを行った。また、2年次保護者を対象に就職説明会を12月に実施した。

特別活動では、重点課題を「生徒が主体となる自主的な特別活動の推進」とした。特別活動の時間確保が困難であり、生徒の多くは自主性に乏しく集団活動を苦手とし、学校行事への参加に消極的であるという現状を踏まえて、生徒会執行委員会と各委員会が連携することで生徒会活動をより活発化させた。また、コロナ禍のなかでも地域との交流など生徒が主体的に参加できる機会を設けた。

7 次年度に向けての課題と方策

今年度も生徒の実態を踏まえた「個々に応じた学習活動」及び「社会的自立に向けた能力を身に付ける」ための支援に重点を置いて取り組んできた。今後は、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動等、あらゆる場面において、担任、年次、授業担当者はもちろん、他の課程の教員や保護者と必要に応じて情報や指導・支援方針を共有し、個別指導に対応できるようにしていきたい。

コロナ禍においても、生徒の自立につなげるために地域や外部機関との連携を工夫し、対策を講じながら行っていくことが重要である。

(様式 5)

8 学校アクションプラン

令和4年度 雄峰高等学校アクションプラン -No.1-	
重点項目	学習活動 【その1】
重点課題	学習習慣の確立と単位修得
現 状	・生徒の家庭環境や生育歴が多様で生活力・体力・学力の格差が大きい。 ・発達障害等の健康面や適応性の問題など様々な経緯により入学・転入編入する生徒が大多数である。学習習慣の確立と日々の学習活動が単位修得率に大きく関連している。 ・専攻科では生徒の知識・関心の度合いに差が大きく、一斉指導が難しい。実習において作業工程をしっかりと理解できない生徒が増加している。 ・近年の単位修得率は、定時制・昼間単位制が80%、夜間単位制73%、通信制が72%（前期）、専攻科では94%（学年末）となっている。
達成目標	単位修得率 【定時制】前期末集計 80%以上 *昼間単位制・夜間単位制共通 【通信制】前期末集計 75%以上 【専攻科】学年末集計 100%
方 策	【定時制】 ・出席率を向上させるため、健康面や学習状況に応じて教員間の連携や保護者等への連絡など早期対策を行う。 ・年次担任を中心に生活指導や進路相談を充実させる。 ・不登校傾向など問題を抱える生徒に対してカウンセラーなど専門家や外部機関との連携を強化し、単位修得や進路目標を意識づける。 【通信制】 ・スクーリングや個別面談を通して生徒の学習状況を把握し、適切な助言や添削を行い、自学自習の意欲向上と定着を図る。 ・レポート提出前の個別指導や科目担当者との面談をより充実させ、学習達成度に応じた学習指導をきめ細かく行う。 ・学習活動が円滑に進められるようにガイダンスやホームルーム活動を通じて、気軽に相談できる環境を整え、目標に応じた学習に取り組めるよう支援する。 【専攻科】 ・生徒の家庭環境や生活状況について調査した上で個々の学習目標と特性を把握し、効果的な学習指導を行う。 ・実習での予習と復習の時間を設定し、学習効果と実技の定着度向上を図る。
達 成 度	【定時制 昼間単位制】単位修得率 (88.4%) (前期) 【定時制 夜間単位制】単位修得率 (83.3%) (前期) 【通信制】単位修得率 (54.9%) (前期) 【専攻科】単位修得率 (97.8%) (学年末)
具体的な 取組状況	【定時制】 ・新型コロナ関連の出席停止等で学習進度に生徒間の格差が生じないように家庭学習による課題指導や個別指導を行った。 ・長期欠席や様々な問題を抱える生徒には、スクールカウンセラー等の専門家や外部機関と連携し、早期対応を図った。 【通信制】 ・レポート提出前の個別指導等により、生徒の理解度を確認し、学習意欲を喚起した。 ・転編入生徒や復活生に対してガイダンスや面談を実施し新たな学習環境への適応を支援した。 ・通信制における学習方法は中学校や全日制高校と大きく異なる。そこで学習リズムの定着を図るため、自分のできる範囲での単位の修得を目指す指導をした。このため単位を1単位以上修得した生徒の割合は65%と高い数字を得た。また自分の学習に自信を持った生徒も見受けられた。 【専攻科】 ・新型コロナ関連の出席停止で学習進度に生徒間の格差が生じないよう課題指導を行った。 ・生徒の出席や学習状況について教員間の連携を強化し、気がかりな生徒には、保護者への連絡や個別面談を早期に行った。 ・実習において自学自習の時間を設定し、学習効果の向上と技能の定着を図った。
評 価	C 定時制については、目標が達成され、専攻科はほぼ目標が達成された。しかし、通信制に於いて目標が達成されなかったため、さらなる向上を目指すため評価は現状維持とする。
学校関係 者の意見	・単位修得率だけにこだわらず、個々の生徒に対して最適な方法を模索し、適切な指導をしてほしい。
次年度へ 向けての 課 題	・学習のつまずきを早期に発見し、学校組織として適切に対処する。 ・評価基準や評価方法の妥当性と信頼性を検証し、生徒の学習改善につなげる。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	学習活動【その2】	
重点課題	読書習慣の定着	
現 状	・本校図書館へ行ったことがある定時制生徒は84.9%と前年(75.1%)より約10%増加した。 ・図書の年間貸し出し数は1.86冊/人と昨年(1.41冊/人)に比べると増加している(昼間1.38→2.01冊・夜間1.68→0.67冊) ・年間読書数は11.54冊/人であるが、1冊以上/年読書する生徒の割合は46.8%(昨年39.6%)と依然低い。90.4%の生徒が「活字を読むことは大切」と考えているが、読書習慣のある生徒は限られている。	
達成目標	① 定時制(昼間・夜間)生徒が1年間に1冊以上読書する生徒の割合(電子書籍、マンガ含む)	② 図書館の利用者数
	60%	30人/日以上
方 策	・クラスHRで図書館の利用や読書会を年1回以上実施し、本に触れる機会を増やす。 ・読書感想文・感想画どちらかの方法で感想をまとめ、それを題材にミニビブリオバトルを実施する。相互に認め合う一体感と、読書への充実感をもたせる。 ・生徒目線にたった図書のレイアウトを工夫する、新聞・雑誌の購入を検討するなど、親しみやすい図書館づくりをめざす。 ・話題性のあるタイムリーな本や雑誌の紹介等の取り組みをして、生徒の興味関心を喚起する。 ・生徒の負担軽減を図り、かつ楽しく達成感のある委員会活動を展開する。 ・図書の選定においては、各教科担当者等の意見を尊重しながら、広い視野に立って年間を通して計画的に購入する。	
達 成 度	1冊以上/年読書する生徒の割合 58.5% 年間読書数 14.9冊/人	図書館利用者数 29.4人/日 掲示物・掲載、展示物を全く見ない 58.9%
具体的な 取組状況	・夏休みの読書感想文に感想画を加え(11点)、クラスでミニビブリオバトルを実施した。 ・従来の購入雑誌を見直し、生徒の興味関心の高い雑誌に替えた。雑誌(バックナンバー)の貸出しを可能にした。 ・廊下掲示・電子掲示板で企画(中高生・kodomo新聞で話題性の高い記事、新聞VSネット、紙媒体VSデジタル、読書の薦め、感想文を書くといいわけ等)を発信した。 ・R5受講登録の参考資料として、新教科書を館内に展示した。 ・学園祭では、カラー心理テストや新聞を活用したクイズ、図書委員企画の一行小説等、これまでの企画を刷新して図書館の居場所づくりを図った。 ・本への関心を高めるために、生徒リクエスト本の投票(学園祭企画)や、SLBAを広く教員から選定、教科希望図書を段階的に募る等、図書の購入を工夫した。	
評 価	C ・全体の63.4%が図書館を利用(前年比-21.5%)した。 ・本を読む生徒の75.0%(前年比+1.6%)が図書館の本を1冊以上借りており、年間貸し出し数は3.6冊/人(昼間2.01→3.7冊・夜間0.67→1.9冊)である。 ・図書を利用したHR活動・学習が推進できるよう準備・連携が課題である。 ・新着・準新着図書の配架や企画展示、館内の雰囲気づくりに工夫を要する。	
学校関係 者の意見	・生徒の興味・関心をひく雑誌を購読したり、いろんな企画を廊下や電子掲示板で発信したりと図書館に生徒を呼び込む努力をされており、素晴らしいと感じた。 ・読書習慣は一生の宝物である。今後も魅力ある図書室の運営を継続してもらいたい。	
次年度へ 向けての 課 題	・一般図書の内訳について購入予算・計画を立てる。 ・生徒図書委員活動は、達成感・充実感を培うものとする。 ・イベント、だより、新着図書案内の発行時期・内容について年間計画をたてる。 ・図書を利用したHR活動・学習が推進できるよう年次・特活と連携を図る。 ・生徒アンケートの意見集約結果より、新着・準新着図書の配架を全面的に変える。 ・企画展示、館内の環境整備と居場所づくりに努める。 ・廃棄図書の分類(県費購入・寄贈)をし、廃棄基準を見直す。 ・蔵書点検の時期を見直す。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	学校生活 【その1】
重点課題	生徒の自律性・主体性の向上
現 状	・本校に在籍する生徒は、小・中学校で教室に入れなかった、または入らなかった生徒が多く、集団に入ることに消極的だったり、集団内で求められる行動ができなかったりするなど、集団の中での生活・行動が苦手な生徒も多い。また、規範意識が十分に育っていない生徒も見受けられる。 ・自己肯定感や自己有用感が弱い生徒が多く、周囲の言動に影響されやすい。そのことが問題を引き起こすこともある。 ・高校入学を機に、自分の目標を定め、学び直そうと地道に努力している生徒も多い。そのような生徒たちを後押ししたり、支えたりする雰囲気を作り出すことが求められる。
達成目標	自ら考え、自律的に行動できる生徒の増加 各課程の様々な教育活動の場面や学園祭等の学校行事で、前年度以上に自律的な行動が意識的に行われ、校風の改善が見られること。
方 策	・昼間単位制では、生徒会が校則（生徒心得）を検討し、守るべき規範は何かを考える中で、その改善案を教職員と協議し、協議した内容を生徒全体に還元する中で意識を高める。 ・夜間単位制では、生徒会や各種委員会を活性化させる中で、生徒の自己肯定感を涵養するとともに、TPOに応じた服装を主体的に考えたり、ルールやマナーを身につけたりする機会を持つ。 ・通信制では、社会的なルール、マナーを意識し身につける機会を持つ。 ・とりわけ、全ての課程の生徒が一同にそろう学園祭では、ルールやマナーを意識しながら行事を楽しむことができるように呼びかける。
達 成 度	天候や体調に応じて着る制服を決める、積極的に挨拶する、集団の中で役割を発揮しようとする生徒が増えている反面、ルールやマナーに違反する生徒も目立つようになった。 積極的に学習活動や学校行事で楽しもうとする生徒が増えているが、自ら企画・運営する力が十分には育っていない。校風の改善という段階にはまだ至っていない。
具体的な 取組状況	・問題が顕在化した段階で、生徒に理由も含めて注意を促すなど、生徒が理解・納得した上でルールやマナーを守ることができるよう努めた。多くの生徒は理解してくれるが、理解しない生徒や理解しても行動に移せない生徒がいる。 ・生徒会とは校則の見直しについて話し合いの機会をもっているが、生徒会の方でも十分にまとまっておらず、道半ばである。 ・行事を通してのマナーアップへの意識付けが十分ではなかった。
評 価	C ・まだまだ取り組みが十分でないため、生徒の意識向上も十分ではない。 ・積極性は増しているものの、自律までにはまだ至っていない生徒が多い。
学校関係 者の意見	・学校生活を送るうえで問題を抱えたり、困り感を感じたりしている生徒に対して、焦らずに長い目で見て援助・支援をしてあげて欲しい。焦って結果ばかり追い求めると、他を思いやる人にならないような気がする。
次年度へ 向けての 課 題	・生徒会との話し合いを継続しながら、集団の中での規律やマナーについて生徒が主体的に考える機会をつくっていく。 ・集会やST・HRなどの機会を利用し、ルールやマナーの理由・背景を説明するとともに、生徒の意見や疑問も受けとめ、よりよき校風の醸成に努める。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和4年度 雄峰高等学校アクションプラン No.4		
重点項目	学校生活 【その2】	
重点課題	生徒の防災意識の現状把握と防災意識の向上	
現 状	・新型コロナウイルス感染症の流行や、地震などによる災害が多発している。そのような状況下において、生徒は自らの命を守るために、リスク回避の正しい知識を持ち、安全に避難行動ができる能力を身につけることが求められる。 ・富山は自然災害が少なく、災害に対する危機意識が低いように感じる。 ・生徒は、災害時にどのような行動をとり、自らの身を守ればよいかの知識が乏しく、自分の居住地の現状や避難場所等について知らないことも多い。 ・富山も自然災害が起きる可能性は十分にあり、災害に備える必要がある。	
達成目標	災害時における居住地付近の避難場所を知っている生徒	
	70%以上	
方 策	・生徒の防災に対する意識調査を行い、現状と課題を明らかにする。 ・外部講師による講義の機会を設け、自分の居住地や学校周辺のハザードマップ等を活用しながら、実際に災害が起きた時に役立つ知識を身につけさせる。 ・保健室前の掲示板を活用し、生徒の興味関心を引くような掲示物を作成し、防災についての意識を高める。 ・毎月発行している保健だよりに、防災をテーマにした記事を連載することにより、防災についての知識、情報を得る機会とし、防災についての興味関心を持たせる。 ・防災教育後にアンケートを実施し、その結果を考察し次年度に活用する。	
達 成 度	74.4% (生活文化科生徒対象アンケート)	
具体的な 取組状況	・防災の日に合わせて、9月から12月まで毎月「保健だより」に防災に関する特集を掲載した。 ・11月の学園祭では厚生委員会の生徒を中心に企画した展示発表を行った。生徒は放課後の時間帯にタブレットを活用しながら防災に関する情報を収集し、「災害は突然にやってくる」というテーマでまとめて掲示した。また、非常食と非常持ち出し品の実物や、防災館からお借りしたパネル展示も同時に行い、来場者にも防災の意識を高めてもらえるよう工夫した。学園祭終了後も、保健室前に生徒作成の掲示物を継続して掲示した。 ・1月に防災教室を実施した。昼間生活文化科の全生徒対象に女性防災士を講師に招き、「ハザードマップや避難所、そこでの生活をイメージすることで、今、自分ができていることを考えてみよう」という内容の講義を拝聴した。生徒は災害を自分事と捉え、何を準備し、どう行動するのかをシミュレーションする良い機会となった。	
評 価	B	・防災に関する啓発活動は全体的に良好であった。 ・防災教室やアンケート調査の対象を昼間生活文化科に限定せず、幅を広げる工夫も必要であった。
学校関係 者の意見	・アンケートによる現状把握から、自分の居住地における避難場所については知っているが、非常持ち出し袋などの準備ができていない生徒（家庭）が多いことがわかった。自分や家族の命を守るための行動について、さらに実践力を身につけていくことが大切だと考えている。	
次年度へ 向けての 課 題	・防災教室はR2年度に夜間単位制生徒、R3年度に通信制生徒、R4年度は昼間単位制生活文化科生徒を対象に3年間開催してきた。生徒が在学中に防災の専門家からの講話を聞く機会があるよう、今後の開催方法を検討していきたい。	

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状維持 D: 現状より悪くなった)

重点項目	進路支援	
重点課題	進路実現をめざす支援活動	
現 状	・生徒の意識が卒業することにだけ向きがちで、卒業後の進路まで考えさせる指導が必要である。 ・進路決定に必要な知識や情報が不足している生徒が多く、進路意識を向上させる必要がある。 ・進路志望に毎年ばらつきがあり、年間の一斉の進路指導が行いにくい。 ・昨年度の達成度（3課程平均 81.7%・専攻科 88.0%）は、達成目標を下回っている。	
達成目標	年度末での進路先決定率 ※就職に関しては志望が明確で就職活動を行う生徒を対象とし、進学に関しては第一志望に限定しない。	
	90%以上	
方 策	・進路希望調査などを通して早いうちから卒業後の進路について考えることにより、受講登録など学習計画に反映させ、進路実現を行えるよう支援する。 ・進路について考えさせる機会を工夫し、進路意識の向上を図る。 ・オープンキャンパスや応募前職場見学などに積極的に取り組ませ、進路意識を高める。	
達 成 度	年度末での進路先決定率（令和5年3月17日現在） 3課程平均：85.1%（昼間：92.9%、夜間：63.6%、通信：73.7%） 専攻科 94.4%	
具体的な 取組状況	○進路について考えさせる機会を増やすため、卒業年次（3・4年次）と2年次に講義や体験の機会を増やした。 ・卒業年次生を対象に進路説明会（模擬授業を含む）を6月16日に実施した。 ・2年次生を対象に就職準備ガイダンスを8月31日に実施した。 ・2年次保護者を対象に就職説明会を12月15日に繰り上げ開催した。 ・2年次生を対象に卒業生のアドバイスを聞く進路ガイダンスを2月24日に実施した。	
評 価	C	・昨年度に比べ就職希望生徒の内定率は高い。 ・進学については一般選抜まで粘り強く取り組む生徒がおり、個別支援を継続している。 ・進路未決定者・無業者は減少している。
学校関係 者の意見	・卒業までに進路先が決定しなかった生徒に対しても、今までと同様に進路の相談をしてあげて欲しい。	
次年度へ 向けての 課 題	・生徒の実態に応じた個別指導の工夫改善が必要である。 ・進路情報の提供方法の工夫が必要である。	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和4年度 雄峰高等学校アクションプラン No.6		
重点項目	特別活動	
重点課題	生徒が主体となる自主的な特別活動の推進	
現 状	・特別活動を効果的に行うための時間の確保が困難である。 ・生徒の多くは自主性に乏しく集団活動を苦手とし、学校行事の参加に消極的なため、参加形態や内容に工夫が必要である。 ・日程や校時の相違から、各課程間の交流の機会が極めて少ない。	
達成目標	① 学園祭に参加した生徒の満足度	② 生徒の主体的な地域交流、ボランティア活動を実施
	85%以上	年3回以上
方 策	・学園祭では4課程合同の企画によって各課程間の相互理解を深めるとともに、多くの生徒が意欲的に取り組むことができるよう、各課程の特色を生かすことを考慮する。また、学園祭事後アンケートの内容を工夫し、生徒の満足度や問題点を分析する。 ・生徒会執行委員会と各種委員会との連携を深め、活動内容を増やすことで、生徒会活動をより活性化させ、生徒の参加意欲を高める。 ・地域との交流活動を中心とした、生徒が主体的に参加し活躍できるボランティア活動の機会を増やす。	
達 成 度	① 91%	② 4回以上実施
具体的な取組状況	・学園祭に関する意識調査によれば、学園祭に参加して満足したかの設問に関し、「強く思う」47%、「思う」44%という集計結果であった。 ・地域交流活動として「春のフェスティバル・イン・あたご」「愛宕ふれあい朝市」「愛宕文化祭」等へ参加した。また環境保全活動として「花街道プロジェクト2022」等へ参加した。	
評 価	A	一人ひとりの意識は高まってきているが、仲間意識をより向上させたい。
学校関係者の意見	・先生方は生徒一人ひとりをしっかり見てくれている。今後とも熱心な指導・支援を継続してほしい。 ・社会に出たときに、一番求められるものは挨拶だと思うので、明るい笑顔で挨拶したときは、褒めてあげてほしい。	
次年度へ向けての課題	・生徒と外部の学校協力者の皆様との関係をより強固なものとし、生徒の活動の機会拡大を目指したい。 ・生徒同士の仲間意識を育て、「協働すること」の楽しさ、やりがいをより広く生徒間に浸透させたい。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)